

2008年10月30日

mail ニュース

4・通巻192号

自治労連 都庁職

自治労連都庁職員
労働組合

発行人 米山隆史

TEL 03-5381-0250

都庁法人が定期大会を開催

東京都庁関連法人一般労働組合は10月29日、第6回定期大会を東京自治労連大会議室で開催しました。

開会挨拶で小野塚委員長は、「飛躍的な1年間だった。私も昨日、和心(いしん)との初交渉に参加したが、皆が堂々とこれまで支給されていない手当などについて要求するのを見て、すばらしいと感じた。一人一人ではいえなくても労働組合としてなら会社当局とやりあうことが出来る。これからも組織強化・拡大に向けて頑張っていきたい。」と述べ、最後に亡くなった勝見副委員長の功績を称えました。

来賓として、東京自治労連の吉川書記長、自治労連都庁職の森田委員長が挨拶を行いました。

続いて菊間書記長が「08年度経過報告」、「08年度会計決算報告」、「09年度運動方針(案)」、「09年度予算(案)」、「役員体制(案)」を一括で報告、提案しました。会計監査報告は、小林マミさんが行いました。

質疑討論では3人の方が発言しました。

多摩北部医療センターの金子書記長は、「昨日も一人新たに組合に加入してくれることとなった。公社(東京都保健医療公社のこと)に移管されてから3年を経過し、『都庁法人保健医療公社支部多摩北部医療センター分会(仮称)』を立ち上げることが出来、5月19日に結成大会を開催した。これも自治労連都庁職養育院支部の支援があったからこそ。小野塚委員長からも話があったが、清掃会社(和心のこと)と初の交渉を行い、みんな明るく元気に仕事をしている。地域にも東村山分会協議会として参加することとなった。

多摩北部医療センターは17人の欠員がいるために一病棟を閉鎖することなどから、やむをえず三人から二人夜勤体制にして16時間勤務を条件付で導入することとなった。これから仲間を増やして頑張る。」と発言しました。

養育院支部東村山分会の今村分会長は、「養育院支部東村山分会として多摩北部医療センター分会を支援していくために組織整備の検討が必要と考えている。一つは組合員の権利・義務の問題だが、これは養育院支部と同一とする。二つ目が多摩北部センターに関する運動だが、これは養育院支部と共同で行っていくこととする。いずれにせよこの間の経過を見ると大変よかったと総括している。外に出る取り組みでは地区労の取り組みにも参加するようになった。中の問題では、労働安全衛生の取り組みなどが活性化してきている。老人ホームに働く非常勤4名が組合に加入してくれることとなったが、この人

たちは慶弔休暇がなかったり、採用から6ヶ月間は有給休暇がないなど、劣悪な労働条件で働いている。正規職員の労働組合もいろいろ勉強して実践に役立てていきたい。」と発言しました。

病院支部の小林百合子さんは、「このたび長期在職ということもあり、大久保病院から豊島病院に異動した。大久保病院で都庁法人への加入訴えをもっとするつもりだったが、やりきれなかったことが心残りだ。間違いなく労働者は組合に関心はあるが、よくわからないと考えている人がほとんど。税費積極的に働きかけてほしい」と訴えました。

報告・提案した案件はすべて、承認・採択されました。

今回の大会をもって小野塚委員長は退任しますが、引き続き副委員長に就任しました。また、新委員長に石橋映二さんが就任しました。